

特集 建設分野の魅力 第31回



取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会



集中豪雨により浸水被害を繰り返してきた西宮市の中心市街地を流れる津門川流域では、高度に開発された都市部における水害対策として巨大な貯留管の整備工事が行われている。津門川上流部の地下に貯留管を設け豪雨時に雨水

を貯め込むことで、周辺への浸水氾濫を防ぐ施設。全国では都市部を中心に貯留管の整備が進められているが、県内河川では初の整備であり注目を集める事業だ。整備にあたる発注側の兵庫県と受注側の建設業者、県と連携して治水対策を行う西宮市に、環境や経済活動に配慮した事業内容、浸水被害からまちを守る仕事の魅力について聞いた。

巨大貯留管整備工事 (西宮市・津門川流域)

深度41m 都市型水害防ぐ



騒音や振動の影響を周辺住民に及ぼさないよう、ハウス内外に計測器を設置している



日々約30人の作業員が働く現場を管理している。局部的豪雨で排水機能が追い付かなくなると、雨水が下水道や小さな川からあふれ、アスファルトなどで覆われた街中では行き場を失った都市機能がまひさせる。高度に市街地化した場所での対策として地下貯留管の工事が進められている。

三野 章生さん
大豊建設株式会社大阪支店
暮らし守る工事に誇り
「約30人の作業員が働く現場を管理している。局部的豪雨で排水機能が追い付かなくなると、雨水が下水道や小さな川からあふれ、アスファルトなどで覆われた街中では行き場を失った都市機能がまひさせる。高度に市街地化した場所での対策として地下貯留管の工事が進められている。」

加藤 貴広さん
株式会社ソネック(高砂市)
社会基盤整備は不可欠
「阪神・淡路大震災で社会基盤整備の重要性を感じたのがきっかけでこの仕事に就いた。2009年に故郷の佐用町の豪雨被害を自らの当りにした。11年には台風の被害を受けた高砂市の法山山谷川の河川改修工事に携わった。今回は自分にとって、一生に一度と言えるくらい大きな治水事業で、私は責任を感じている。」

防音ハウスの一放流立坑。整備現場、まず深度41mまで掘削、その後トンネルで掘削して地下貯留管の敷設を進めている。西宮市神崎町



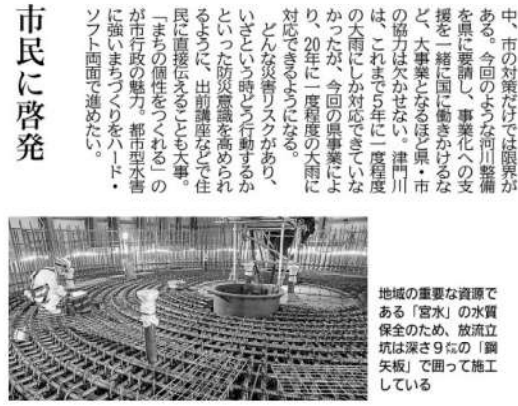
津門川地下貯留管整備事業
西宮市中央部を南北に流れる2級河川・津門川周辺は、近年では1999年の豪雨で205戸、2013年の豪雨で17戸が床上浸水に見舞われるなど、浸水被害に悩まされてきた。これまで改修を進めてきたものの、高度に都市化が進む地上部での対策には限界があるため、県が津門川の地下に貯留管を1.7km整備し、川の upstream に貯留管への流入口を設置して浸水被害の回避・軽減を目指す。工期は20年10月から24年3月で、工事費約80億円。将来は地下貯留管を大阪湾まで延伸し、約3.8kmの地下河川として整備する計画。

小林 英文さん
株式会社田村組(小野市)
後まで残る仕事醍醐味
「共同企業体(JV)の職員一人として、工事管理にあたり、酒造りのこの地域とつなぐべく、大きな責任を感じている。自分も関わった構造物を家族にも見せたい。半永久的に残る仕事に誇りを感じている。」

前 克弥さん
兵庫県西宮土木事務所 河川砂防課主査
住民の期待大きく励み
「西宮市は住宅情報サイトなどの住みたまランキングで上位に入ると人気エリア。中心部はマンションや商業施設が密集しており、工事中の津門川流域には関係者の団体も20以上ある。3年半の長期にわたる工事なので、着手前の計画説明だけでなく、進捗状況や細かな施工方法を」

原 伸征さん
西宮市 水路治水課長
災害リスク市民に啓発
「西宮市では、これまでから治水対策に取り組んでいるが、10月9日の豪雨を機に、雨水を一時的に貯留し、時間を差で放流する施設を公共用地の地上・地下に整備。すでに市内小中学校の大半を占める56校のグラウンドで貯水機能を備えた施設を整備した。ただ近年の降雨が激化している」

中、市の対策だけでは限界がある。今回のような河川整備を県に要請し、事業化への支援を一緒に国に働きかけるなど、大事業となるほど県・市の協力は欠かせない。津門川はこれまで5年に一度程度の本雨にしか対応できていなかったが、今回の事業により、20年に一度程度の大雨に対応できるようになる。どんな災害リスクがあり、いざという時にどう行動するかといった防災意識を高められるように、出前講座などで住民に直接伝えることも大事。『まの個性をつくれるのが市行政の魅力。都市型水害に強いまちづくりをハード・ソフト両面で進めたい。』



地域の重要な資源である「宮水」の水質保全のため、放流立坑は深さ9mの「鋼矢板」で囲って施工している

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および再配布は禁止します。